

ゲノム編集技術の ヒト胚等への 応用について考える

ゲノム編集技術をヒト受精胚・生殖細胞へ応用することは、様々な問題点があることから、学術的にも、社会的にも容認されていない。一方、2018年11月に中国で、ゲノム編集を施された双子が誕生したというニュースが世界を駆け巡り、その実施が後日確認されている。このような状況の下で、ゲノム編集技術の利用、その規制の在り方、そして倫理的問題に関する議論が国内外で行われている。日本学術会議は、このたび、ゲノム編集技術のヒト受精胚・生殖細胞への応用に関するフォーラムを開催し、ゲノム編集技術を取り巻く現在の情勢を共有すると共に、将来に向けて様々な立場から議論したい。

13:00～13:05	開会挨拶	三成美保(日本学術会議副会長、奈良女子大学副学長・教授(研究院生活環境科学系)) 司会: 武田洋幸(日本学術会議第二部幹事・第二部会員、東京大学大学院理学系研究科長・教授)
13:05～13:15	趣旨説明	武田洋幸(同上)
13:15～13:35	講演 1	「ゲノム編集技術の現状と課題」 阿久津英憲(日本学術会議特任連携会員、国立研究開発法人国立成育医療研究センター研究所・部長)
13:35～13:55	講演 2	「WHO および国内外における取組みの現状」 加藤和人(日本学術会議特任連携会員、大阪大学大学院医学系研究科・教授)
13:55～14:15	講演 3	「日本の立法的対応の前提と方法論」 高山佳奈子(日本学術会議第一部会員、京都大学法学研究科・教授)
14:15～14:35	講演 4	「難病研究におけるゲノム編集: 医療現場からの課題と期待」 松原洋一(国立成育医療研究センター研究所長、東北大学名誉教授)
14:35～14:50	休憩	15分
14:50～15:10	講演 5	「科学的生命観と人間の〈いのち〉」 香川知晶(日本学術会議連携会員、山梨大学名誉教授)
15:10～15:30	講演 6	「ゲノム編集された子とその親」 石井哲也(日本学術会議連携会員、北海道大学安全衛生本部・教授)
15:30～15:50	講演 7	「ヒトの遺伝子改変是非論の争点」 松原洋子(日本学術会議連携会員、立命館大学副学長)
15:55～16:55	総合討論	コーディネーター: 石川冬木(日本学術会議第二部部長、京都大学大学院生命科学研究科・教授) 他
16:55～17:00	閉会の挨拶	田坂さつき(日本学術会議連携会員、立正大学文学部哲学科・教授)

2019年11月24日(日) 13:00～17:00(12:30開場)

会場: 日本学術会議講堂 (東京都港区六本木7丁目22番地34号)

主催: 日本学術会議 / 入場無料 / 要・事前申し込み / 定員: 300名 / 申し込み <https://bit.ly/32dyUdS>

問合せ先: 日本学術会議事務局 03-3403-6295

